

磐城時報

編輯長 石城郡平町 田中 弘成
印刷所 石城郡平町 磐城時報社
電話 一四四
代印 石城郡平町 磐城時報社
代印 石城郡平町 磐城時報社
代印 石城郡平町 磐城時報社
代印 石城郡平町 磐城時報社
代印 石城郡平町 磐城時報社

平銀行合併は 必らず實現する

常磐銀行三宅支配人談 調査は五六日で終了

休業した平銀行は水戸市常磐銀行と合併する事既に報の如くであるが、之がため十九日午後常磐銀行から支配人三宅亮一、行員高野直孝、中村梅三郎三氏が平銀行に來り、廿日午後同行樓上にて細目に亘り調査を行ふ事になった。三宅支配人は語る「十七日平銀行の高岡取締役外二名が水戸の本店に來られて會見したところは是非とも合併して貰ひたいとの話だつたから磐城銀行が休業し又平銀行が休業するやうな場合は、島縣下の産業に重大なる影響を及ぼすから財産内容を十分調査した上で合併の可能性があれば誠意をもつて合併の促進を計らうと答へたが、平銀行の重役は合併の交渉を進めて居る中に取付けに會つた場合は常磐銀行から現金を送つて救済する考へであるといつたので重役はこれを諒として歸られたが十八日の真夜中に突然十九日から休業するとの電報があつたので、常磐銀行に驚いた次第です。常磐銀行としては無論合併の方針で平銀行の資産内容を調査に參つたのです。平銀行は相當内容が好いと聞いてをりますので、第一回調査した上も想像以上から町役場に開き協議の結果工

平銀行休業 地方への影響

平銀行の休業が地方財界に及ぼす影響は極めて甚大なるものが、既に合併の方針をたて、平銀行界は再び不安のどん底に陥るのの間に近き事を察し極めて無事平ではないかとみられてゐるが、某種の状態である。

新築役場の工費には 町有地を賣却する

昨日第一回委員会で決る

中町役場の新築は過般の町會に費七萬餘圓の抽出は町有地を賣却して、昨年度豫算に工費七萬餘圓却する事に決定した。賣却する町有地の左の如し。
現在平町役場敷地三百六十三坪、坪一坪八十圓、二萬九千四百十圓
水道部敷地四百四十三坪、坪一坪七十圓、三萬一千圓

極めて平穩 平銀預金者

今日まで堅實なる銀行として知られてゐた平銀行が突如休業するに至つた事は誰しも驚いた事であるが、一般預金者の態度を見るに頭取山崎與三郎氏の人格を信じてゐると、又地方に於ける有力銀行水戸市常磐銀行が合併の方針をたて、平銀行界は再び不安のどん底に陥るのの間に近き事を察し極めて無事平ではないかとみられてゐるが、某種の状態である。

▲元平陽女學校敷地百二十八坪、坪一坪八十圓、二萬三千四百十圓
▲合計八萬三千九百十圓

赤井村の粘土に アルミニウムを含む

永久性のものと判れば
一大工場を設立

植田町會延期

植田町會は十七日召集部落有林統一處分の件を附議する筈だったが、御大典事務の關係から廿四日午前十時開會に延期となつた。

平町に グラウンド設置

有志が奔走
平地方におけるスポーツ熱は最近非常に盛んになつて來たが、現存の平町には適當なグラウンドがないため一般スポーツマンは何れも遺憾としグラウンド設置を叫ぶ。業界の行き詰まつた折柄非常な起すものと觀測されて居る。

植田町警東銀行で 關係者に聲明書

二十日重役の名で配布

植田町警東銀行では磐城銀行に引續き平銀行が休業するに至つたので預金者その他一般取引先の不安を一掃するため二十日左の如き書状を一般に配布した。

頭取	江尻 博孝
専務取締役	金成 欽治
同	岡山 保次郎
同	馬山 誠一
同	兒玉 萬平
同	永井 柳太郎
同	古川 義節
同	藤田 淺之助
同	久保 榮作
同	星 友太郎
同	安島 富吉
同	下山 嘉一郎
同	城部 錦村

郡南庭球 勿來校優勝

石城郡第一區體育會では十八日午前十時より植田小學校庭球部にて今年金成通氏寄贈の優勝カップ争奪の第一回戦式庭球試合を行った。参加十四組で決勝戦は植田校兩齋藤組對勿來校小野手代木組となつたが植田組惜敗第一回優勝カップは勿來校小野手代木兩訓練の手に歸した。

喜多會發會

石城郡湯本町の喜多流素盞同好者より成る湯本喜多會の發會式は十八日正午から同町大瀧館に於て開催したが盛會を極めた。

煙管で殴る

双葉郡熊町村大字大和久生れ當時好間村大字下好間字大館木質宿高木藤四郎方居住製板職工藤地周吉(三二)は去る十一月十九日午後八時頃高木方に於て伊達那川俣町生れ同宿の土工島倉半造(二六)と飲酒し口論の上煙管を以て半造の左額部を毆打し全治三週間を要する重傷を負はせたとので平署で取調中である。

來郡演說

永井柳太郎氏は二十八日來平し二十八日、二十九日兩日に亘り平、内郷、植田の三箇所政談演說會を開く事に決定した。

陪審員候補抽籤

石城郡錦村役場では十七日陪審員候補の抽籤を行ひ左記六名當籤した。
赤津萬次、赤津仙吉、小鍛治長治、小鍛治常太郎、小宅嘉恵、佐川政吉

看護婦表彰

平町一丁目鷹崎千代氏方看護婦草野サキは飯野村隔離病舎に於て誠心誠意を以て病人の看護をなしたので伊藤飯野村長は金一封を添え表彰した。

自動車 三名を轢く

一名死亡、他は重傷
▲石城郡小名濱町磐城海岸軌道株式會社自動車運轉手岡部勢太郎(二四)は十八日午後一時頃同郡錦村字大倉地内國道に於て前方から来た荷馬車をさげんごした際同村赤津芹之助の六女スイ(一七)を轢倒し即死せしめた。
▲十八日午後一時頃石城郡植田町自動車營業渡邊三郎方見習ひ運轉手五十嵐幸作(二一)は自動車運轉練習中同町字金畑地内國道で茨城縣多賀郡磯原町於圓炭礦長屋原北藏(五二)を轢倒し全治二週間を要する打撲擦過傷を負はした。

磐高女 奉祝音樂會

磐城高等女學校では二十五日午後零時半から三時迄同校講堂に於て大典奉祝音樂演奏會を開く筈で曲目左の如し。
1 獨唱「昭和の光」小林愛雄作 歌、室崎琴月曲一年 童謡「菓子汽車」西條八十詞、山田耕作曲 2 二部合唱「旅の秋」ロニア民謡、堀内敬三詞二年一及二 童謡「時計屋の店」西條八十詞、山田耕作曲 3 二部合唱「サンタルチヤ」ナポリ民謡、長尾豊歌 4 オルガン獨奏「アスタツルツ」グノツ作曲三年岡部アヤ 5 四部合唱「流浪の民」シューマン曲、石倉小三郎詞四年 6 獨唱「風鈴」川路柳虹詞、山田耕作曲一年宮内トキ 7 三部合唱「秋晴」ウエツテリソング曲、大須賀鐵歌三ノ一 8 二部合唱「他郷の月」中村秋香詞、ヘイズ曲二年三、四 童謡「秋祭」三木露風詞、山田耕作曲 9 ビ

鳥御料理 蒲焼

平町南町小館隣り
電話四二四番

野十一郎歌三ノ二 18 ビアノ獨奏「ソナチネ」ドウシエク作 品二〇ノ一 四年 山内朝子 19 三部合唱「御代のみ菜」ヘンデル(原名ハレルヤ)コーラス) 四年コーラス 20 オルガン獨奏「オペラ中の人魚」の唄三年中村盛子 21 獨唱「からたちの花」北原白秋詞、山田耕作曲四年鈴木三八重 22 ビアノ獨奏「ソナタ」ペーベン 23 四部合唱「昭和の大御代」ペーベン曲 君が代齊唱
訂正 十八日夕刊所報平町一丁目藤崎貞衛氏夫妻が十七日一丁目區民を谷口樓に招待して賜儀の披露をした旨の記事は、同夫妻が一丁目の宴會に於て賜儀酒の披露を行った誤聞につき訂正す。

高久病院

内科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科
院長 高久忠
平町 電話一三五

磐城無事會

貯蓄・貯蓄・貯蓄
貯蓄・貯蓄・貯蓄
貯蓄・貯蓄・貯蓄

大和田醫院

耳鼻咽喉科
電話一七〇番

松村病院

内科 専門
皮膚病 専門
電話七〇一

山崎合名會社

東京支店
電話一〇〇番

西村屋藥舖

代理店
電話三番

ツルヤ商店

電話四十四番

古流教授

折入
電話一〇〇番

耳鼻咽喉科

電話五九五番

産婆

電話四四三番

藤沼醫院

電話五〇七番

秋冬の御用意には

電話一〇〇番